

特攻の史実を 後世に残す ②

知覧特攻平和会館では、「知覧からの手紙」（知覧特攻遺書）を、平和を願い、知覧から世界へ語り継ぐため、ユネスコ世界記憶遺産登録を目指しています。

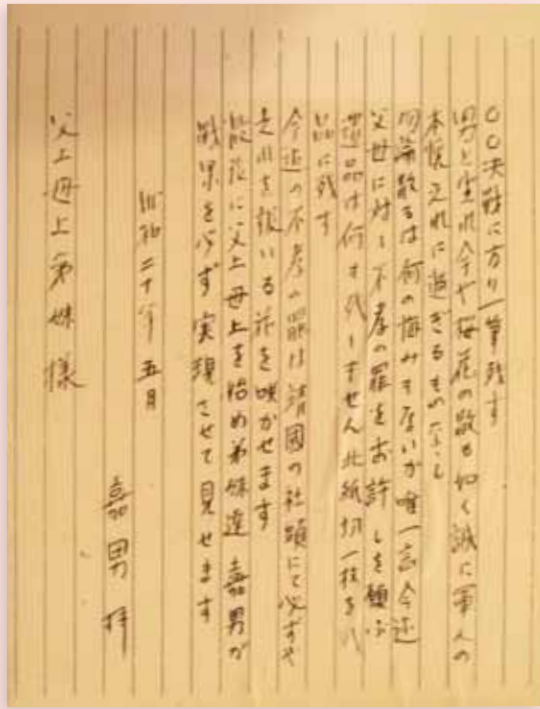
伝えられない 最期の場所

長瀬嘉男少尉

出身地 兵庫県尼崎市
第3独立飛行隊（享年27歳）

「散ることに何の悩みもない」と記されているように、遺品を此の遺書一枚しか残さずに出撃した27歳隊員の遺書です。軍事機密であった決戦場の名前を伏せており、当時の緊迫した軍事状況が伺えます。

特攻に向かう沖繩を〇〇と記し隠蔽するとともに、父母へ十分に孝行できなかったのを我が罪とし、その罪を特攻戦死により報いたいとする強い決意を表した家族宛ての遺書です。



〇〇決戦に方り一筆残す
男と生れ今や桜花の散る如く誠に軍人の本懐之れに過ぎるものなし
勿論散るは何の悩みもないが唯一言今述父母に対し不孝の罪をお許しを願ふ
遺品は何も残しません 此紙切一枚を残品に残す
今迄の不孝の罪は靖国の社頭にて必ずや之れを報いる花を咲かせます
最後に父上母上を始め弟妹達 嘉男が戦果を必ず実現させて見せます
昭和二十年五月
嘉男 拜
父上母上弟妹 様

知っていますか？ 指定文化財⑥

穎娃郷地頭飯屋跡



江戸時代の穎娃地域は、薩摩藩直轄地でした。地頭飯屋とは、役人が務めていた役所的な所で、穎娃郷を治める地頭が、鹿児島城下から訪れた際の宿泊所として用いられたようです。地頭飯屋の周辺には、麓と呼ばれる武家集落がありました。

明治以後も、昭和44年まで穎娃町役場が置かれており、行政機能の中心だった場所です。現在ここには、郡地区公民館と、穎娃歴史民俗資料館が建っています。

あいさつ・声かけで育む青少年健全育成 ・安心安全な地域づくり

(南九州市青少年健全育成キャッチフレーズ)

共通実践事項

- 気持ちのよいあいさつと返事をしよう
- 家の手伝いや読書をしよう
- 地域の行事に参加しよう



ふるさと体験学級茶レンジ隊
「ペットボトルロケット製作体験」

「青少年育成の日」

毎月第3土曜日

「家庭の日」

毎月第3日曜日